

Action 3

水素直接供給への挑戦

POINT

- 沿岸部を中心とした適地に、**新たに水素導管を敷設し、ローカル水素ネットワークでの水素の直接供給**を目指す。
- 水素については、国の水素・燃料電池戦略協議会の中間取りまとめ等の動向も踏まえつつ、製造・輸入・供給・利用等の面での課題について、**多彩なアライアンスパートナーとの協業を視野に入れた検討**を行っていく。

【Action 3】水素直接供給への挑戦

- 今後もガス事業者が地元の行政等と連携しながら水素直接供給の取り組みを推進し、地域における大規模な水素直接供給のローカルネットワークを形成。
- 水素サプライチェーン構築にあたっての課題は、①水素製造、②水素海上輸送、③水素タンク、④水素導管供給、⑤消費機器開発、⑥その他保安面等が挙げられるが、ガス業界としては、①、④～⑥を中心に検討を実施。

水素サプライチェーンに向けた検討

HARUMI FLAG※への水素供給(東京ガス)

HARUMI FLAGに水素パイプラインを整備し、各街区に設置する純水素型燃料電池への水素供給を行う予定。

※東京2020オリンピック・パラリンピック選手村活用後、新築住宅として完成予定。



出典：東京都選手村の整備

新エネルギー社会実現構想の策定 (常磐共同ガス)

独自に、水素パイプラインの敷設や水素需要創出策としての産業団地整備などを盛り込んだ「新エネルギー社会実現構想」を策定。

水素直接供給に向けた課題整理・検討

①水素製造

→ Action2に記載

②水素海上輸送

③水素タンク

④水素導管供給

国の水素・燃料電池戦略協議会等で検討

- ローカル水素ネットワーク構築に向けた適地選定
- 水素導管敷設に伴う安全性評価

⑤消費機器開発

- 水素用ガス機器の研究、開発支援

⑥その他保安面等

- 水素直接供給における安全検証